

令和6年度 第2回草津市読書のまち推進計画審議会 議事録

■日時：

令和6年10月17日（木） 13時30分～15時30分

■場所：

草津市役所 4階行政委員会室

■出席委員：

細谷副会長、柴田委員、茶木委員、笠井委員、藤内委員、柳澤委員、涌井委員、小林委員、佐々木委員、堀江委員、奥村委員

■事務局：

草津市教育委員会 藤田教育長、岸本教育部長、菊池理事、安藤総括副部長
二井副部長（図書館）、学校教育課 西田課長、寺西専門員
生涯学習課 古川課長、山田課長補佐、河合主事、図書館 大西副館長、加藤副館長

■傍聴者：

0名

開会

【事務局】

開会挨拶

1 教育長挨拶

【教育長】

本日は大変お忙しい中、第2回草津市読書のまち推進計画審議会への御出席をありがとうございます。大変爽やかな気候となり、いわゆる読書の秋です。先日、韓国のハン・ガンさんがアジア人女性として初のノーベル文学賞を受賞されたということで、読書離れが進む中で、身近な所から受賞者があられて、大きな話題になりました。国内でも芥川賞、直木賞といった大きな文学賞の発表があり、今後優れた文学作品にふれる機会が多くなると思います。

読書の季節ということで、草津市立図書館では例年11月3日に図書館まつりを開催しています。今年は草津市市制施行70周年を記念して、70冊の絵本を司書がバトンタッチをしながら読み聞かせを行う絵本マラソンを実施します。その他にも盛りだくさんに色々な事業がありますので、足を運んで頂けたら幸いです。

一方、文化庁が先日発表しました「国語に関する世論調査」では、1か月に1回も本を読

まない人が6割を超えるそうです。本計画の策定に向けて実施した市民アンケートでも、1か月に1回も本を読まなかった人は、未就学児と小学生では1割未満ですが、中学生では2割を超え、16歳以上の市民では約4割近くが読書をしないということで、本に親しんで頂くことがこれから大きな課題となります。

本日は市民アンケートの集計結果の報告、結果から得られた課題、草津市読書のまち推進計画の方向性や施策体系についてお示しします。忌憚のない御意見を頂き、計画づくりを進めて参ります。よろしくお願いいたします。

【事務局】

委員15名中11名出席で半数以上出席、草津市附属機関運営規則第6条第1項に基づき当審議会は成立、公開原則、傍聴希望者なし

草津市社会教育委員会議からの推薦委員として10月1日付けで茶木委員が就任

【事務局】

議事の前に、第1回審議会の振り返りをします。「(仮称)草津市読書のまち推進計画」の策定方針として策定の趣旨、背景等の他、策定にあたって3つの視点を説明しました。次に「第3次草津市子ども読書活動推進計画」と「草津市の図書館運営計画(後期)」の評価・課題を説明し、次に「(仮称)草津市読書のまち推進計画」における市民アンケート等の実施について、目的や対象、設問等を説明しました。

今回は、市民アンケートを7月から9月に実施しましたので、その集計結果を説明します。また、「(仮称)草津市読書のまち推進計画」の施策体系について審議を頂きます。

本日の審議に移ります。草津市附属機関運営規則第5条第2項により、議事進行は副会長にお願いします。

2 議事

-
- 1) 「(仮称)草津市読書のまち推進計画」における市民アンケート等の結果 および(仮称)草津市読書のまち推進計画の施策体系について草津市読書のまち推進計画における策定方針について 【資料1、2】
-

【事務局】

(資料1、2の説明)

議事1)の質疑応答

【副会長】

ありがとうございました。市民アンケートの結果、分析内容及び3つの課題を踏まえて読書のまち実現に向けた方向性、施策体系について説明して頂きました。資料1-2にある1か月の読書量では不読率が焦点になっていて、学齢期が上がるにつれて高まっている。16歳以上では4割位になっている。本を読まない人がこれだけいるということの数値で見ると、

非常に残念な気持ちになります。今回の計画では「本を読まない人が多い」と嘆くだけでなく、いかに魅力的な読書環境をつくるのか、全世代が読書に親しむ機会をつくれるかが、草津市の新しいチャレンジ、大きなチャレンジだと改めて実感しました。アンケートに表れた読書の傾向や課題について、皆様の現場での経験や実感等とどのように重ね合わせてお考えになるのか、御意見御感想を積極的に頂ければと思います。

【G委員】

日ごろから本がある環境づくりがとても大事だと思いました。図書館に連れて行ける家庭となかなか行けない家庭もある中で、学校図書館の充実を希望します。学校に行けば図書館があり、家庭環境に関係なく本に親しめることが子どもたちにとって大切ではないかと思います。草津市では未就学児や幼稚園、小学校の低学年には、絵本や本の読み聞かせで本に親しむ機会づくりに取り組んでいると思いますが、高学年・中学校の図書環境、小学校の図書館と中学校の図書館を比べると、中学校の図書館はすごく寂しいです。小学校はボランティアも入り一生懸命ですが、中学校は暗いイメージがあり、行きたい時間に図書館に行けません。時間があっても閉められており、放課後も朝も入れないので、一番身近にある学校図書館を充実していくことは、大人になっていく過程でも必要です。

【D委員】

今の意見にとっても賛成です。長女は非常に本が好きで本の虫でしたが、中学校の図書室は開いていないと言っていました。高校になるとちゃんと司書がいてアドバイスもくれるし、いつも開いているしとても喜んでいました。「利用しない理由」として、図書室が開いていないというのは大きな欠陥です。中学校にも司書を置いて頂きたいし、自分の中学時代もかなり図書室で本を読んでいた。機会をちゃんと与えて欲しいです。

【A委員】

本当にこれからどうなっていくのか、本がなくなってしまう危機感があります。本に代わってスマホの情報が世の中に氾濫して、若い人も高齢者もスマホの情報を本みたいに毎日何時間も見えています。読書みたいな感じで見ているのではないのでしょうか。スマホの情報がなくならない限り、本の復活はないのではないのでしょうか。草津市でも本を買える所は数件です。図書館へ行く人は決まっています。図書館と縁がない人が大多数です。小学校・中学校の資料はたくさんありますが、卒業した大人向けの資料はほとんどないみたいです。地域の人たちの相談でも、読書に関する問題提起は一度もありませんし、みんなにも伝わっていないと思います。一部の人が大変だ、読書離れだという気持ちで済ましていると思います。これではだめだというなら、本格的に地域の人との接触、例えば地域まちづくりセンターとの接触、学校だけでなくそういう団体との接触が必要です。京都や大阪では古本市も度々やっていて、かなり人気です。本への興味はあると思います。古本市を草津でやったという情報は一度も聞いていません。一年に1回でも大々的に市役所前の広場等で古本市をしたら人は集まると思います。若い人も興味を持つと思います。そういう行動をして欲しいです。

【F委員】

学校図書室に行く目的がないという中学生がいますが、小学校は図書の授業があります。小学生は月2、3回が一番多いですが、これを入れているのではありませんか。自主的に図書室へ行く小学生はかなり低いと思います。それが悪いことではなく、だから小学校の図書室等を充実して色々な興味を持つことで、中学校でも自主的に図書館へ行きます。図書室の利用率が5倍になっているのは、小学生は図書の授業があってそこで読んでいる人が入っているからではないでしょうか。

障害についていうと、バリアフリー化だけで図書館を利用してくれるのではありません。例えば、まめバスで図書館へ行きますが、一人乗っているともう乗れません。自分で行こうと思っても行けないので、やめようとなります。図書館だけのバリアフリー化ではなく、公共機関のバリアフリーも必要です。目が見えない方だと、広報の薄いものでも点字だと分厚くなるので、充実できるか非常に難しいです。車椅子でも本棚の上のものは取れませんが「取れないです」と言えないし、いちいち行って帰って来ないといけません。そういう設備のところで利用しづらさがあって、それならインターネットで調べようとなります。色々な課題がありますが、まず学校図書で子どもが興味を持って、それからやっていければいいと思います。

【副会長】

不読率についてわかることあれば、事務局いかがですか。

【事務局】

例えば、小学校ではその期間に授業で読書の時間、学校図書館に行ったときの冊数は入ります。逆を返せば、行っても読まなかったら入らないこととなります。

【F委員】

中学校は図書の授業がありませんよね。図書館で45分間読みましょうというのがないので、行く目的がないと思います。行く目的は調べものとかありますが、そもそもそういう感じなのかと思います。アンケートではわからないと思いますが。

【J委員】

中学校の現状をお話しさせていただければと思います。本校には司書が週1回来ています。1年生の入学時のオリエンテーションで本の借り方・返し方を教えてもらうので、その月はかなり利用者がいます。また、来月の草津市のビブリオバトルに参加するために、国語の授業で学級や学年でビブリオバトルをしています。1年生は授業内容にゆとりがあるので積極的にできていますが、3年生は授業内容にゆとりがなく取り組めない場合もあり、学年によって不読率に差が出てきます。本校の1年生の不読率は2.3%ですが、3年生は69.1%です。授業で取り組めているかどうかでも、ずいぶん差があります。

私自身が若かった頃は月曜日は1年生とか火曜日は2年生とか、学年が交わらないような生徒指導上の配慮もしながら運営をして、来室制限をした時代もありました。現在は子どもものそういう心配がなくなってきたことや、週1回司書が来たり、図書委員をリーダー

的に育成しながら図書委員による運営ができていたり、図書室もずいぶん明るく子どもたちが行きやすい場所になっています。

本校では毎お昼休みに50名位、全校の8分の1程度の生徒が図書室に集まります。図書委員が読書ランキングを年に2回発表しています。貸出冊数の調査をしてベスト10を決めて、ベスト3には委員による手作りプレゼントを渡しています。9月末に読書量ランキング1位になった子は半年で189冊読んでいます。1日1冊以上読んでいる割合で、大概図書室に来たら3冊本を借りて並行読みをしているようで、そんな子もいます。教員が図書室で子どもたちを見守るより、お薦め本を教えてもらったり、作家について尋ねたりしたい生徒もいるので、そういうことに答えられる大人、司書が毎日いるともっと行く目的が生まれて充実すると思います。

本当に草津市は図書にお金をかけており、新しい本をどんどん買うことができます。

【副会長】

玉川中学は模範的な事例ですか。

【J委員】

市内6中学ですが、ほぼ平均して同じような状況だと思います。

【事務局】

市が学校司書を配置していますが、年間1校あたり51日、週1～2日司書がいて、子どものニーズに合った本の対応、学習で使う本の選書等を行います。各中学校で聞くと、昼休みはどの学校も開室していますが、小学校に比べて昼休みが短いので行くことが難しい状況かもしれません。

【C委員】

中学の時、図書館へ行って授業で聞いた作家の本を見ていました。今の中学生がどんな風に興味を持つかわかりませんが、興味がある人は工夫すれば図書館に行くかも知れませんが、そもそも本がおもしろくなさそう、そこまで行って読まなくてもと思う人は、大人も含めていると思います。草津市立図書館でビブリオバトルやビブリオトークに参加すると、色々な年代の人がいます。同じ本なのに人によって感想が全く違うことがとてもおもしろいし、お話しされているのを聞くのも楽しいです。この計画はものすごくいい計画なので、たくさんの方が本を読んでいるのが周りに見えたら嬉しいと思います。

可能かどうかは別にして、読書に興味のない人も通る場所で、ビブリオバトルをこういうことについてやっていますとか、ビブリオトークをこういう本でやっていますということを通り掛けに見ることができると、そんなことあるんだとかやっているんだと興味を持つ人もいるのではないのでしょうか。その時、図書館の新刊本の情報があると、興味がある人しか取りにいかない情報が、その場で通り掛けに目にとまるようなことができるといいと思います。色々なサークルや、草津川跡地公園やフェリエ南草津、UDCBK（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ）とか、どんな形かわかりませんが、こじんまりしたことを見えるようにできるといいと思います。

【G委員】

各学区の地域まちづくりセンターや各町内で講座は色々ありますが、本に関することはほとんどありません。子どもたちが放課後に地域まちづくりセンターに寄って食べたりしゃべったりしていますが、そういう所で本の案内ができたり、大人でも絵本を読むのが大好きだし、高齢者サロンでも今時の本や絵本とかを紹介できたらいいかなと思いました。基本方針にも家庭や身近に本がある環境をつくりましょう、というのが大きな課題としてあげられて、身近な所というと私たちが住む環境の中では地域まちづくりセンターが赤ちゃんから大人まで集まる場所なので、その場所を有効に使うことができないかと思われました。

【B委員】

アンケートについて、自分の学生時代の様子を思い返してもなるほどと思いました。市立図書館や学校図書室も努力されている中で、プレッシャーだろうなと感じました。「読書離れに果敢にチャレンジする草津市」と、前向きに捉えると、色々な場面、色々な読書に親しむ選択肢があるとよいと思いました。例えば、身近な読書の環境では地域まちづくりセンター、公共施設に限らず、映画館や広場等の色々な所で読書や絵本を紹介する機会があります。1時間に5冊位を映画館のスクリーンで紹介するNPOがあって、親子がたくさん見に来て、そこで紹介された本が映画館の下にある書店で売られていて、その本を買って帰るということがありました。色々な活動団体がいて、広場にたくさんの絵本を持ってきて親子が自由に読めるし、読まなくてもよいみたい。広場という公共空間を演出されるNPOもいくつかあります。行政がしていくことと、民間や活動団体に手伝ってもらえる計画になるといいのかなと思います。例えば司書ではなくまちの書店員に学校で紹介してもらってもいいですし、チャレンジングな計画になると良いと思います。読書活動の入り口として、最後は紙の本を手にとってもらうことを目標にしながら、スマホやタブレットからでも読書に入ってもらえる環境、デジタルの環境を整えるのもありではないでしょうか。そこから紙っぽいかなと思えるような導線ができる、そういった計画になったら良いと思いました。

【D委員】

今のお話を聞いて、「世界の不思議な図書館」という本にたくさん例が出ています。ニューヨークの地下鉄で列車内のポスターにスマホをかざすだけで読みたい本の最初の数ページを読むことができ、その書籍を所蔵している最寄りの図書館を示した地図が送信されてくる。そのバーチャル図書館を考案したのはマイアミ・アド・スクールの学生たちの発想なんですね。公園で360度本が見えるようにして椅子もたくさん置いて、色々な所でわかにかに図書室ができるみたいな例がたくさん出ています。昔の口バのパン屋じゃないけど、口バの図書室、ぞうの図書室、らくだの図書室も出ています。とてもおもしろい本で、草津市立図書館で借りることができます。

【I委員】

小学校の様子をお話しします。スマホやタブレットで本が読めたらということですが、小

学校では一人1台端末があり、その中に本もたくさん入っています。子どもたちは早く活動が終わったら、その中の本を読むこともあります。それも1冊に数えています。絵ばかりではなく、学習漫画など、読みやすく子どもの興味がそそられやすい本がシリーズで入っており、子どもたちはそういうものを読んでいます。

図書室の割り当ては週1回あり、週1回以上は授業で図書室を利用しています。授業で総合的な学習がメインですが、図書室で本を借りて何かを調べる、課題について調べるということもしています。スピードの時代なので、タブレットで検索すれば何でもすぐに出てくるのでどうしてもそうなりがちなところを、ネットだけでなく本からの情報とネットからの情報を比べてしっかり調べて吟味してまとめるよう指導しています。

学校図書館は、読書ボランティアを含めてしっかり取り組んでいただいております。色々工夫して頂きありがとうございます。本校では毎週木曜日の朝に読み聞かせボランティアが来て読み聞かせをしていただいております。子どもたちは読み聞かせも大好きで、誰一人喋ることなく聞き入っています。ただし、休み時間ですから、自分から読む子と外で遊ぶ子と二極化しています。どちらも大切なのでバランスよく子どもたちが参加してくれると良いと思っています。

【H委員】

当園は私立幼稚園で、かつては各教室に20、30冊くらい絵本があり、そのクラスの子が見ていましたが、どうしても限りがあるので、3年前から園児数も減り教室が空いて来たので、各部屋の本を空き教室にまとめて図書館のようにして、子どもたちがそこへ来て自分の好きなものを選びます。週1回、金曜日は2冊持って帰り、家族と一緒に読み書きするシステムを始め、好評です。月1冊、月刊誌を無料で配布しています。毎月図書館だよりを市の図書館から送ってもらいますが、新刊の紹介があるのでコピーして各家庭に配るのもいいかと考えています。

【E委員】

年を追うごとに本を読むのが少なくなっているというところが課題になっているのかなと思います。私も大学生になって論文を書いたり、レポートを出す時に本を読まなきゃということがありますが、自ら進んではあまり読んでいないかなというところが実際あります。講師をしている塾でも高校生も同様に読んでいません。あらすじや本の導入部分が学生からするとレベルが高く感じます。なぜかというと、小さい時から動画や誰かが聞かせてくれるという恵まれた環境にあったからこそ、本を読んで自分から情報を取りに行くことがもともとないため、あらすじを簡単に1分位の動画で紹介したものや誰かが口頭で説明するだけでも、小学生・中学生・高校生の入ってくる認識が変わります。おもしろそう読んでみたいとなると、もっと深く知りたいから読んでみようとなつてくると思います。

あとは、皆さんのお話を聞いて「連携」と「コラボ」が重要で、その上でのきっかけづくりかと思います。実際に地域の促進でやったことですが、「地域の促進×(カケル)おばあちゃん」ということで、おばあちゃんカフェが一時期すごく流行りました。おばあちゃん

んに相談するコミュニティスペースでしたが、本でも言えることなのかなと。「本を読みに行きましょう」と、本だけだと壁が高いため、今ちょっと悩んでいること、言いたいこと、質問したいこと、お父さんお母さんだと言いつらいけれど、おじいちゃんおばあちゃんだと話しやすいというところから入り、本を読んでもらう。色々な世代間の関わりもできつつ本も読める、という連携になるのではないのでしょうか。意外と高校生でも読み聞かせを楽しみにしている子がいるので、世代を問わず誰かが発信して伝えてあげることが重要です。最後に、あおばな号が稼働しているにもかかわらず認知が足りず利用が少ないことがもったいないと思っています。芸術を移動として使ったり、建物も含めていろいろな要素で移動を使って身近にしていくことが主流になっているので、もっと前進できれば良いと思いました。

【副会長】

活発な御議論ありがとうございました。皆様から環境をどうするのかとか危機感や現場の実態、具体的な提案も頂きました。今後それら含めて更に検討頂ければと思います。議題(1)はここまでにさせて頂いて、審議了としますが宜しいでしょうか。それでは次に議題(2)について、事務局から説明をよろしくお願いします。

2) (仮称) 草津市読書のまち推進計画における主な事業について 【資料3-1、資料3-2】

【事務局】

(資料3-1、3-2の説明)

議事2)の質疑応答

【副会長】

ありがとうございました。御意見、質問のある方お願いします。

【C委員】

読書バリアフリーの来館困難者への対応で、目の不自由な方の音訳と一緒に施設に行っ
て読み聞かせをしていたことがあります。高齢になると、その年齢の方に懐かしい「伊豆の踊り子」とか「野菊の墓」とか読みましたが、「読みます」と言うと施設の方が同じ場所にみんなを集めて聞かれることが多くて、「なんぼ聞きたくてもそんなのしんどいわ」ということが多くなってくると思います。来館困難者、特に音訳、点訳も大事ですが、借りたり返したりで手間がかかりますし、読書ボランティアの中に、部屋から動けない人に館内放送だと、聞きたくなければ切れると思うので、そういう形でのボランティア活動も、難しいが入れたらどうでしょうか。

【副会長】

バリアフリーの観点から、F委員いかがですか？

【F委員】

確かに、集めるのは運営側の都合です。利用者の都合ではないのでその通りで、声を聞こえなくすることができるような工夫や合理的配慮が必要なので賛成です。

【B委員】

資料3-1で施設場所が横軸にあって「地域」の主語は誰がすることですか。地域と書いてあって、地域の中で図書館や学校がされるのでしょうか。担い手ですね。市民講座の実施、ビブリオトークの開催とか、読書ボランティアの養成講座実施とか、色々書いてありますが、学校や図書館にプレッシャーがきつく、すごい量だと思います。地域まちづくり協議会に協力してもらい、協議会で地域の地元の子どもたち向けにされるとか、そういう意味もあるのでしょうか。

【事務局】

地域に関しては、地域まちづくり協議会にやってもらうこと、図書館がやること、各課がやること、色々混ざっています。必ずしもどこがやるということはありません。それを整理して素案で提示します。

【B委員】

図書館は計画でも読書の推進でも、最後のセーフティーネットというイメージです。推進は図書館もしますが、色々な場所で色々な立場の人が書店も一緒に推進していくみたいところで、図書館はそういう情報が集まり適宜相談に乗れる機関というか、中間支援をされる所という役割があると思います。色々な障害があって図書にふれることができない方が、必ず図書館ではふれることができるという、そういう役割があると思っており、施策にどう移していくのか難しいですが、先ほどの意見に加えます。

【G委員】

読書ボランティア養成講座とは具体的にボランティアとはどんな内容ですか。

【事務局】

読書ボランティア養成講座が新しく、となっているのに不思議に思われたかもしれません。今まで図書館で色々な団体や施設から依頼されて養成講座をしていましたし、事務局の生涯学習課でも社会教育委員会のテーマの一つとして、ここ2、3年読書ボランティアの養成講座をしました。読書のまち推進計画ということで、地域全体で読書活動を推進する担い手を育成する観点で、マッチング等も含めた形で新たな養成講座をします。読み聞かせを中心に考えていますが、映画館でブックトーク、ビブリオトーク等色々な形で色々なことができると思います。図書館に来て頂くための読書推進ではなく、色々な地域で活動して頂くためのボランティアの養成講座と今は捉えています。

【A委員】

地域サロン支援活動とありますが、社会福祉協議会の地域サロンでしょうか。各学区では社会福祉協議会のサロン活動が活発です。家に本があったから読書に興味があったというようなアンケート結果がありましたが、おじいちゃんおばあちゃんが家に本を持って帰って家に置く環境づくりをこれからしていかないとだと思います。本を貸し出す場所を図書館だけじゃなく他の場所にもつくることになれば、各学区では社会福祉協議会の地域サロンや百歳体操など、色々な活動が行われています。その機会、その場所を捉えて本を貸し出す

運動もこれからは必要だと思います。社会福祉協議会と老人会と地域まちづくり協議会に関わっていますが、今まで読書に関する話をあまり聞いたことがありません。高齢者の時代でもあるので、読書活動を推進していく方向は小学校・中学校だけでなく、高齢者や高齢者が集う場所を利用して、家庭に本を持ち帰る機会をつくれば一歩前進だと思います。

【事務局】

資料3-2では主要なものをあげていますが、全年齢共通の項目で「図書館のサテライト機能の充実」と書いています。資料3-1には地域サロン等への図書館の団体貸出事業も記載しています。図書館のサテライト機能の充実では、地域の身近な場所に本を置く、それを借りて帰って、図書館に行かなくても借りられる仕組みを検討しています。地域の皆さんが集まる場所を活用し、サロンを含めて、本に親しむ環境をつくっていきたいと考えております。

【H委員】

資料3-2の「全年齢共通」のところに「書店との連携事業」とありますが、書店と合わせて出版社も入れると良いのではないかと思います。昨年、幼稚園の協会で絵本作家を呼んで講演してもらった際は出版社も一緒に来てもらい、色々な本を持って来てもらい販売会をされました。本来は幼稚園やこども園の先生方向けの研修でしたが、保護者もOKにしたら結構親子連れで参加され、ずいぶん本も売れたので、そういう考えも良いと思いました。

【F委員】

立命館大学の連携授業とは、具体的にどんなことですか。

【事務局】

立命館大学の学生に図書館に来てもらい、サークル活動の一環で子どもたちに科学工作等を教えてもらうというような講座を開いたことがあります。図書館にも関連の本があるとか、工作から本に広がることを一緒にやらせていただきました。読書ポイント事業というものが去年ありましたが、頑張ってポイントを貯めた子どもたちを立命館大学BK C（びわこ・くさつキャンパス）の理工学部のラボに招待し、ラボを見せてもらったものづくりの体験をしたりという連携事業をしています。

【副会長】

協定を結ばないとだめだと思いますが、市民が大学図書館を使えるような連携の仕方とか、そういうことまで広げられるとより効果的だと思います。

【F委員】

交流の事業と思っていました。

【事務局】

成人までということではないのですが、小中学生の夏休み期間に、立命館大学BK Cの図書館を開放して頂いていることは既にあるので、もっと地域開放をということをもた御相談させて頂けるとと思います。

【副会長】

主な事業でかなりたくさんメニューがあつていいと思いますが、予算措置は大丈夫でしょうか。

【事務局】

予算措置はこれからというところもありますし、計画自体は今後5年間の計画ですので来年度すぐというわけではなく段階的に進めていければと考えており、将来的な計画も含めて検討しています。

【副会長】

議事（2）は以上です。ありがとうございました。本日の審議内容は終了致しました。進行を事務局へお返しします。

閉会

【事務局】

閉会挨拶